

# 原子力のリスクと対策の考え方 ～社会との対話のために～

## 【開催概要】

〈日時〉 2016年3月4日(金) 13:30-17:30

〈会場〉 キヤノングローバル戦略研究所(CIGS) 大会議室(丸の内1-5-1 新丸ビル11F)

〈開催趣旨〉

CIGS 原子力安全研究会は、原子力の現状における安全課題を明確化し、対策の考え方を体系的に整理して、社会に発信し議論していくことを目的に2014年10月に発足した。

福島第一発電所事故を受け、各機関において安全思想の基本概念である「深層防護」について様々な議論がなされているが、深層防護の両輪である「安全設計」と「安全運用」の役割分担は未だに結論が見いだされていない状況にある。

原子力発電所では、安全設計や安全運用に加え、「安全規制」も加わりそれらが分担・協力して原子力の安全性を高めている。しかし、この安全の議論のもととなる定量的なリスクが不在のために、多数個別の安全対策に追われ、結果的に国民に負担を掛けることになっている。

原子力は社会性が高いため、システムを合理的にとらえるリスクマネジメントの視点で安全を評価し社会と対話を図ることが必要とされる。

以上の問題意識から、以下のような4つの課題に対し、研究会から提言するとともに本ワークショップにおいて議論する。

- ① シビアアクシデント対策を含む深層防護の考え方を論理的に再構築する。
- ② 電気事業者が新規規制基準に従い実施している安全対策とその費用に関する情報を収集し、安全対策の現状(対策の項目やコスト)を明らかにする。
- ③ 確率的リスク評価は、現在の安全の水準を総合的に評価し定量化する特徴を持つので、安全評価と対策立案の過程に有効活用する方法を検討する。
- ④ 原子力の社会的受容を考えるに際し、リスク評価だけではなく、ベネフィット(例えば、気候変動対策、環境対策、エネルギーセキュリティなどに対する有効性)も考慮してエネルギーシステムとして比較評価する方法を検討する。

〈申し込み専用 URL〉 [https://f.msgs.jp/webapp/form/14638\\_arv\\_196/index.do](https://f.msgs.jp/webapp/form/14638_arv_196/index.do)

## 〈プログラム〉

13:30-14:00	趣旨説明：氏田 博士 (CIGS 上席研究員) 「原子力の役割と安全」
14:00-14:30	発表：富永 研司 (原子力安全推進協会 部長) 「原子力の安全思想の再構築について」
14:30-15:00	発表：安藤 弘 (株)原子力安全システム研究所 研究員 「電気事業者の安全設備対策の状況」
15:00-15:30	発表：村松 健 (東京都市大学 客員教授) 「リスク情報を活用した安全確保・向上の考え方」
15:30-15:50	休憩
15:50-16:20	発表：氏田 博士 「合理的な安全の考え方による社会との対話」
16:20-17:30	パネルディスカッション：「原子力のリスクと対策の考え方～社会との対話のために～」 〈モデレータ〉氏田 博士 〈パネリスト〉講演者・ 予定：関村直人(東京大学 教授)・尾本彰(東京工業大 特任教授)
17:30	閉会